

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070300310		
法人名	医療法人共和会		
事業所名	グループホーム塩田		
所在地	長野県上田市中野29-2		
自己評価作成日	平成26年12月25日	評価結果市町村受理日	平成27年3月26日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マシネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	H27年1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が、自宅に近い住み慣れた地域で、同法人の充実した医療による健康管理がなされ、隣接する畑で野菜や花作りを楽しみ、行事やドライブで季節を感じられる生活を共に送って頂ける様に努めています。又、音楽療法を取り入れ、情緒の安定と意欲を引き出し、一人ひとりのペースや個性を活かした支援に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

併設する医療法人が経営するグループホームである。併設した老人保健施設との人材研修、上田市グループホーム間での施設研修で互いの職員を研修に出すことでホームの良さや他ホームの工夫など肌で感じる研修体系がある。このホームの職員はホーム長をはじめ、職員は一丸となり利用者が日常生活で穏やかに過ごせる支援に努め、認知症の利用者ではなく人と人との心のつながりを大事にした支援に努めている。「職員が利用者を見てはばかりでなく、利用者も職員をしっかり観ている。人生の勉強になります」という職員の言葉からも人としての尊厳を大事にした生活支援が垣間見られるほどである。音楽療法から声をだし経口摂取に結びついた利用者、一人ひとりの生活歴、アセスメントから何回も職員間の話し合いを重ね本音を言い合い、様々な気づきや気づきの目を持つことで本人らしい生活支援を獲得できた事例を通じ自信につながる人と人の心のつながりの証明にもなっている。今後、ボランティア育成、地域交流などによりゆとりを持ち、ホームが目指す目標達成に向けた取り組みが期待される。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名()			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な住み慣れた場所で、安心してゆったりと住み続ける事を目的として、独自の理念を職員全員で見直し作り上げ、日々努力している。「寄り添う」「付き合う」「断ち切らない」地域の方々と「共に考え共に築く」馴染みの場所で暮し続ける事を支えていく、を経営理念としている。	ホームの理念は、玄関に掲示されている。理念に基づきどのような心掛け、利用者本位の寄り添う支援ができるかを5つの項目に明記し職員室に掲示している。家庭的な住み慣れた場所で安心してゆっくり住み続けることを目標に日々共有している様子がうかがえた。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	病院祭をきっかけに併設病院の通路の壁に、グループホームの情報や利用者の作品を展示する事で、病院を訪れた地域の方々に徐々に関心を持って貰えるようになった。また、ボランティア募集のチラシを自由に持ち帰って貰う事により、少づつボランティアの支援を得られるようになった。	音楽療法士の実習の受け入れや毎月2回の傾聴ボランティアが見えている。家族会にもハーモニカ、ギター演奏などが見えている。ホームの畑は、以前勤務していた職員が支援を続けている。8月の花市にも参加し学校体験もあり、道祖神には、子ども獅子舞がホームに来てお菓子をあげるなど地域交流に努めている。ボランティアの募集もチラシの工夫をし継続し支援していただけるように努めている。併設の病院祭での地域への情報提供などにも努めている。	さまざまな工夫をしながら、地域交流に努力されている様子がうかがえた。ホームが目指す「地域の方々とともに築く支援のため地域相互の関係性の構築をさらに進めることで更なるホームとしてのステップアップにつながることを期待したい。また、ボランティア育成により継続した支援がなされることが、職員のゆとりを生み目標に向けたさらなる取り組みに期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年1回病院祭では地域の方々へ施設についての説明や施設への案内を行っている。病院の壁には「誰にでも起きうる身近な問題・認知症」と題して解り易く記載した内容を提示している。また、随時地域の方から認知症の相談も受けている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々と繋がりや周知してもらうきっかけの場としている。又、皆が求めている事を聞く機会を多く持つ様に努め、現在取り組んでいる内容についても報告し、意見を貰うようにしている。	運営推進会議は、2か月ごとに開催されている。地域住民の参加はホームの近くに住む住民にも声かけし参加していただき、地域理解にも努めている。推進会議では家族会を兼ね食事会を行ったり、一緒に作業をするなど利用者の状況を理解していただく工夫をしている。また、施設開放や火災訓練等の報告や訪問診療への移行時にも意見を頂くなどサービスの質の向上に努めている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じ連絡を取り行き来をしている。地域運営推進会議では、利用者の暮らしぶりやニーズから率直な意見を貰い、サービスの向上に具体的に活かす様にしている。	運営推進会議の参加を中心に利用者の暮らしぶりを実際見ていただき、一緒に行動していただくことで具体的な意見を頂いている。包括からも「地域で支える支援の参考になる」等意見も頂くこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員で取り組んでいる。玄関の施錠解放を法人に働きかけ、平成24年12月施錠解放を実現させ、抑圧感のない暮らしの支援を行っている。建物の構造上、来訪者や人の出入りがわかるようにチャイムを設備した。	身体拘束の無い支援は十分理解されている。ホーム内でも転落の危険のある利用者は布団対応の支援をし自由に這いながら動いていただく、利用者の安全を配慮した環境を整え放尿等もセンサーなどの工夫で支援している。玄関施錠も法人に働きかけ、職員と話し合いを重ね解放ができた。現在、帰宅願望の利用者の観察や支援方法の模索のため施錠となっているが課題として十分な検討を行っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員の問題として、利用者と最適な関わりが持てるよう話し合ったり、勉強会を実施して周知徹底に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に積極的に参加し、普段より職員全員が理解する必要があると考えている。利用者には成年後見制度を利用されている方もおり、本人にとって暮らしやすい環境や支援をしていく為に、定期的に連絡をとりあい情報交換をして協力体制をとっている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解・納得できるように十分に時間をとり、その都度質問や確認をとりながら説明を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	生活相談員・ご家族・ボランティア等来訪者の意見・要望を参考にして、職員会議で検討し、即実践できる事は行っている。	家族の訪問は入居時に訪問していただくように促し毎月4-5回見える方や年に3-4回などさまざまであるが定期的に「茶飲み友達」を家族あてに送り利用者の様子を常に理解いただくようにしている。来所時に話を聞き意見を頂くようにしている。運営推進会議、家族会でも意見を頂けるように努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議を設け、その時に意見を出して貰っている。又、必要に応じ緊急会議を開催したり、日常的に問題がある場合も随時意見を出して貰い、現場で起きている状況や変化を知り、努力や成果について把握するように努めている。	毎月、職員会議が2回ある。施錠解放についての意見交換や利用者の日常的な支援についてや職員の働きやすい環境等についても意見を言い、職員体制の改善など、何を優先することが利用者中心の生活支援につながるか提案しステップアップできるよう考えている様子がうかがえた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	キャリアパス制度の導入に参加している。今後の取り組みに向け、当法人の規程を勘案しながら検討中。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に参加できる機会を確保し、キャリア別研修会・施設内外研修・地域の中でのグループホーム勉強会等で、学んだ事を日頃のケアにどのように活かし、自己を高めていくかをお互いに発表し合い、職員全員で共有するように努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の働きかけによる総合評価事業に参加し、積極的にフレンド会・事例検討会等、宅老所グループホーム協会の研修やグループホームへの総合訪問活動を通して、ケアの質の向上に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族から十分な情報提供をして頂く事や、利用前に利用者様と家族での見学及びお試し期間を設け、少しずつ慣れて貰い安心感を持って頂く様に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に気を配り対応している。個別に時間をとり、ご家族の都合に合わせて、その都度の対応にも心掛けている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	病院・老健等、併設機関の協力をえながら、又他施設との連携を密にして、本人の希望に添えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に本人の持てる力を引き出し、職員が教えて頂きながら生活を共にし、「寄り添っていく」という考えに立ち、お互い様の関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時間の許す限りご本人と共に過して頂ける様に365日ホームを開放し、訪ねて来やすい雰囲気づくりにも配慮している。利用者と家族とが一緒に食事をし、ご本人との絆を深めていける様にする等、グループホームの暮らしやケアにも家族も関わられる場面や機会を多く持って貰う事で、本人を支えていく為の協力関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の状況において個人差はあるが、できる範囲での支援をしている。又、利用者にとって唯一肉親の関係が途切れぬ様に、グループホームを家族の泊まりの場としても提供している。手紙のやり取りや電話をかけるお手伝いもしている。	入居時に、家族がホームと一緒に支援していく大切さを説明し、事あるごとに家族と連絡し関係性の維持に努めている。ホームに家族が泊まれる準備をいつでも一緒に過ごせるようにしている。正月に外泊する方もおられ温泉に出かけるなど、利用者の状況に応じ手紙や電話などできる手伝いをしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について、全職員が情報の共有と連携をとっており、常に意識して個々の対応をしている。又、心身の状態や気分・感情で日々・時々変化する事もある為、注意深く見守り、利用者のトラブルが生じた時はお互いダメージが残らない様に、調整役となって支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	その後の生活に困惑してしまわれ様、サービスが終了しても相談に応じ、希望に添える様支援している。又、どの職員にも気さくに話しができる様に窓口を広くしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が言葉にした思いや希望・表情や動作を敏感に察知し、生活に反映させている。センター方式を活用し利用者の生活歴や思いを把握して、ケアプランに役立てている。また、他医療機関の受診時にも活用し、情報提供を行い本人の診療にも役立てている。	アセスメントはセンター方式を利用し、利用者の発する言葉に耳を傾け生活歴とともに利用者が何を考え何を思っているかの把握に努めている。センター方式で利用者の姿をしっかり観察し思い描く大切さの理解もされている。入居時などには時間をかけ個別に話をし、思いを受けとめ介護される側に立ち、思いや意向の把握に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴を知る事で「なるほどそうだったのか」と理解できる場面が多々あるが、情報不足の場面もあり、家族との信頼関係を結ぶなかで徐々に情報を得ている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りノートを活用し、生活記録から一人ひとりの一日の様子を報告し、職員全員が利用者の現状把握に努めている。当日の職員はケアの重点項目を共有し統一したケアに努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の心身機能の低下に伴い、医療面で医師・看護師・理学療法士・作業療法士との連携を密に行い、アドバイスをプランに反映させている。	介護計画は3カ月ごとの見直しと毎月の職員会議でのモニタリングを行っている。現在、新人職員の教育もあるため担当制は廃止しスタッフ全員で考えることでスキルアップできるようにしている。家族の意向は来所時に確認し、来所できない利用者には電話での確認などを行い、その都度状況の変化に合わせた介護計画を皆で確認している。追加や変更などは色を変え、いつでも変更点がわかるように工夫している。併設の病院の専門職との連携もあり、アドバイスを頂くこともある。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを用意して、バイタル測定・体温・脈拍・食事・水分量・排泄・月毎の体重測定等健康管理、及び日々の言葉やエピソードを記録している。記録を常に全職員が確認しており、情報の共有をしながら個別記録を基にケアプランの見直しをしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の思いや状態・家族の意向に配慮しながら送迎・付添い等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>希望や体調に応じ、関連施設に来る出張理容サービスを利用したり、食事に関しても他施設の手作りパンや、地域の業者に食品の配達を定期的に依頼している。その他にも、図書館の無料貸し出しの利用・地域住民の作品展示物の鑑賞やボランティアの活用・学生と接する機会を持つ等の暮らしの楽しみを支援している。</p>		
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>平成26年6月より法人病院より、毎月1回医者と看護師による訪問診療を行っている。日頃の健康管理において家族の思いを受け止められ、より良い関係ができ、希望に沿った支援をしている。</p>	<p>利用者の身体機能低下により、訪問診療を法人病院の医師が行うようになった。毎月1回の往診となり緊急時の対応も24時間併設病院の連携が取れるようになっている。健康面での家族の安心につながった。精神科受診など必要時は職員が家族とともに受診し適切な医療支援を行っている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>同法人内の看護師が全ての利用者の把握をしており、必要に応じて何時でも適切な受診や看護が受けられる。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>同法人内の医療機関との連携は密にとられており、夜間帯の急変時に対しても敏速な対応がとれる。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>個々に家族との話し合いを行い、十分説明し、納得された上で方針を共有している。重度化に伴いご家族の意思確認も、グループホームで対応しえる最大のケアについて説明を行っている。それを踏まえ、グループホームでの看取りを行っている。</p>	<p>「重度化した場合における指針」が作成されている。入居時から時間をかけ説明し、心身の変化により家族とのずれの無い思いの共有をしながらその都度、家族の意思確認を行っている。終末期のあり方は医療を持つホームの併設施設や病院との連携を取り、その都度家族の揺れ動く意向を重視した終末期が迎えられるようにチームで支援している。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>隣に病院があるものの、もう一度見直していく必要がある。病院で催す研修会に積極的に参加して、全職員が実践力を身につけていきたい。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練・避難経路の確認・消火器の使い方等の訓練は定期的に行っている。グループホーム独自でも夜間の一人体制を想定し行っている。それにより建物周辺の環境整備にも気付きが得られ、法人に働き掛けていきかけを得た。施設内に防災グッズも配備した。	消防署の協力で毎年2回の避難訓練を行っている。避難訓練、避難経路確認、消火器使い方など併設の老健との合同で行う。その後、ホーム内での夜間一人体制を想定し行っている。運営推進会議で地域の消防団も見える中で意見交換などなされている。建物周辺の環境も見直し、センサーライトの設置をし夜間避難ルートの確保、消防署直通の緊急通報システム設置や防災ずきんが居室内に設置された。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	支援が必要な時ご本人の気持ちを大切に考え、さり気無いケアを心掛けている。又、自己決定し易い言葉かけに努めている。「あせらずに待つ」「本人の気持ちに動いてこそ行動に繋がる」事を心掛け、誇りやプライバシーを傷つけない対応に取り組んでいる。	外部研修で接遇の研修も行い、会議で共有し言葉かけやケアなどの振り返りも行っている。利用者の呼び方も名字を基本とし昔からの呼び名で本人の心地よさを感じる対応に努めている。日々の中で気づいたことは、その都度個別に話をするなどしている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声を掛け、表情や仕草を読み取って些細な事でも本人が決める場面をつくる様に努めている。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し、それに合わせた対応に心掛けている。その日の体調・精神状態等の様子を観ながら、本人の希望に沿った個別対応もしている。しかし、スタッフの都合で入浴や行事等の日時を決めてしまうことがあり、今後の検討課題である。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に着衣はご本人の意向で決めており、見守りや支援が必要な時は手伝うようにしている。自己決定しにくい利用者には、職員と一緒に考えアドバイスをして、本人の気持ちが高揚する言葉かけにも配慮している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>片付けや食器拭き・テーブル拭き等職員と一緒にやっている。又、利用者と職員が同じテーブルで会話を楽しみ、座席の位置にも配慮しながら楽しく食事ができる雰囲気づくりをしている。メニューにも考慮し希望や食べやすい工夫等、一人ひとりの口腔状態に合わせた支援をしている。</p>	<p>食事の献立は、併設する施設の栄養士が栄養面からアドバイスをしていただく仕組みがある。基本献立は職員が作成しているがその日に合わせアレンジし、便秘に対する乳製品を取り入れ、庭先の畑で採れる季節野菜を収穫し食卓にのり会話がまた弾む。年に3回くらい外食もあり行事に合わせた外食支援も行っている。テーブルごとに職員が付き利用者との会話を楽しみ体調に合わせた食事支援の様子がうかがえた。</p>	
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>一人ひとりの食事量は摂取記録により全職員が把握しており、量の加減も調整している。水分量の少ない方や食の細かい方には、工夫を凝らし食事の提供の仕方にも配慮している。年一度、関連施設の管理栄養士が栄養バランスチェックを行い、的確なアドバイスを受け改善に繋げている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>一人ひとりの口腔状態に合わせてケアをしている。ご自分で磨く方は職員が最終チェックをすることにより、口腔内のトラブルや義歯の破損等についても早期発見に努め、口腔体操も取り入れ健康管理に努めている。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>自尊心に配慮しながら利用者の様子から敏感に察知し、トイレ誘導したりご本人の求めに応じて支援している。又、布パンツの使用を極力継続していただける状態に支援して、本人の不快感を少しでも軽減できる様に努めている。</p>	<p>居室内で排尿してしまう利用者などには、センサー利用の工夫をし時間誘導など取り入れおむつでなくトイレで排泄できる支援も検討し行っている。利用者本位に自分が人にしてほしいと思う支援を常に行えるよう職員は心がけている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>日頃より牛乳や乳酸飲料食物繊維の多い食材を提供している。適度な運動を心掛け自然排便を促す工夫をしている。便秘症の方には個々の状態に合わせて、下剤の使用量や頻度の調整をしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者のその日の体調や希望に応じて入浴をしている。他者に気使いする事なくゆっくりのびのびと満喫してもらえる様に、一人づつ入浴して頂く事を基本に、仲の良い人同志で入る事もあり、リラックス効果をもたらす入浴剤も使用したり、足浴をして血行を促す事もしている。	利用者の気分に合わせて入浴できるようにいつでも入浴できる体制がある。基本は週2回としているが入浴の希望があればできる。入浴剤での入浴を楽しむ工夫や入浴に拒否的な利用者は浴室で遊びを取り入れ楽しい気持ちを持っていただく。一般浴が難しい利用者は併設の施設での特浴で安全に入浴行う体制がある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整える様に努めている。又、一人ひとりの体調や表情・希望に合わせて、ゆっくり休息がとれるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤飲を防ぐ為服薬チェック表を作成し、二重チェックする事により、事故を未然に防ぐ体制をとっている。薬を手渡しし、飲み込み迄の確認・飲みづらい薬は形状や嚥下し易い工夫をして、支援をしている。月一度の定例往診時には、利用者の日常の症状の変化を伝え、服薬の調整をする等医療との連携をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮して貰える支援している。お願いできそうな仕事を頼み、必ず感謝の言葉をお伝えしている。又、お酒を希望される時はお出ししたり、嗜好品を家族に持参して頂くお手伝いもしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の方と外出される利用者もおられるが、ドライブに行ったり暖かな日はホーム周辺を散歩したり、買い物に行ったりと戸外の空気を吸ってストレスの発散にも心掛けている。	本が好きな利用者は、図書館に本を借りに行く。洋服なども一緒に出掛け選ぶなど日々の生活の中でも個別の外出支援を行っている。また近くの温泉場に行き、観音様にお参りしたり年間の外出行事もあり戸外への気分転換できる支援をしている。定期的に家族と出かける方もおられる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力にに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全ての利用者ではないが、御家族の理解のもと事業所がお金の管理をしている。時には衣類を一緒に買いに行き、好みの服を選んだり支払って頂く様になっている。又、お預かりしている通帳を職員が同行し記帳に行き、残高を把握して頂いている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から手紙が届いた時はお部屋にお持ちして読んで頂く等、プライバシーの配慮をしている。ご家族にはこちらからも電話を掛け、お話できるお手伝いもしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花々を飾ったり、全員で手掛けた作品等を展示している。季節の移り変わりを感じて頂く為に、月行事の飾りつけなども一緒にしている。ソファに寛いでいる時は好きな音楽をかけたりと、思い思いに過ぎて頂いている。又、より清潔で過ごしやすい環境を提供できる様、床の張り替えと玄関ホールにスライド式ドアを設置した。	玄関を開けると直接屋外の冷たい空気が流れ込まないように玄関ホールにスライド式の扉が設置された。玄関ホールにソファがあり利用者の居場所となりくつろいで過ごされている。床暖房であるため歩行だと転倒してしまう利用者もゆっくりずり歩きすることで自由に行動を妨げない支援ができています。居室入り口には自分の居室がわかるようにすべて色違いでのカーテンが下げられプライバシーの配慮もされていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールにソファを置き、一人で過ごしたり、気の合う利用者同士と一緒に寛げるスペースがある。ご自分の指定席があり、思い思いに寛げる居場所がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や調度品、写真や思い出の品々が持ちこまれ、それぞれの利用者の居心地の良さを配慮している。持ち込みの少ない方は、本人と職員の相談のもと居室の雰囲気づくりに努めている。	寝具やベットはホームが準備し毎週1回リネン交換もあり清潔に過ごされている。本が好きな利用者の居室は椅子やテーブルを家族が持ち込み、家族写真や家でかわいがっていた犬の名前の付いたぬいぐるみ、居室内にテレビやソファなどもあり自由に過ごす居心地良い居室づくりがされている。本人と職員と一緒に落ち着いた居室づくりをされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の目線に合わせた位置に名前を貼り、トイレが解り易い様に昔の呼び方で大きく書いて表示している。居室入口のカーテンはカーテンの色で自分の部屋だとわかる工夫をしている。		